

年頭にあたり

オ。ビ。二。オ。ン

後藤新平という一代の政治家がいる。内務省衛生局長、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、内務大臣、外務大臣、東京市長、再度の内務大臣を経て宰相にもつ少しで手が届くまでにいた。しかし、後藤の長い政治人生における「青春」は台湾総督府民政長官の8年余の時代であった。総督府を辞し初代満鉄総裁に就任して以降の後藤の文章には、台湾時代に輝いていた光彩が失せ、政治的地位は着々と上昇していく一方で軍部や官僚や閥僚に対する不公平感、愚痴めいた話が次第にふえてくる。日露戦争勝利の頃から築きあがれた既得権益に高い志操の後藤の建議のことごとくが退けられてしまったのである。

思想や人間観を現実政治に

後藤にとって台湾は「建国」であった。権力と権威において比類なき軍政家・兒玉源太郎を総督に擁し、しかも帝国憲法・議会の制約からも離れ、フロンティア台湾

のキヤンバスのうちに「生物学の原理」にもとづく諸政策を次々と展開していく。台湾時代の後藤ほど力動感にあふれた政治的人生は稀代のものなのである。自らの思想と現実といふ。自らの思想や人間観を現実の政治に生かすことなど容易でもあるまいが、後藤にはそれができたのである。後藤の幸運であった。後藤の思想と人間観は何かと問われば、私は次の二つのことが頭をよぎる。

後藤は初めて台北の街を訪れた時、不思議な光景をみた。本土のどの街についても酒やタバコを商う店舗は必ずある。ところが台北ではこのいのちをもほとんどみかけない。なぜなのかな。台北の人々の嗜好がアヘンの一点に集中しているのは、やはり「のめりこむ」という意味の心理学の用語である。アヘンが台湾の人の人間観、鮮やかというべきであろう。

後藤は清の時代に清國の領土に組み込まれたが、これが統治の対象となることはまるでなかった。後藤はこう考える。

台湾は清朝による統治の境外に放置されていたがゆえに、「自治習慣」がここには驚くほどに発達しているではないか。

「此自治ノ慣習コソ、台灣島ニ於ケル一種ノ民法ト云ウモ不可ナシ」という。新しい統治者となつた日本がこの旧慣を存分に活用しないではすがない。権力者が

権力をもって統治のあり方を自在に構想しよと/or>のではない。何よりも日本の制度や機構を存立せしめている国家安全保障が随分とぎわ

したらしい。そのためにはアヘンの販売価格を高価にし、タバコと酒類を妥協にする方法しかあるまい。專賣制度の導入によるアヘン漸減策の第一歩であった。後藤

は「はまる」とか「のめりこむ」という意味の心理学の用語である。アヘンはこの嗜癖性において

タバコや酒類に比べて相当地に強いものらしい。後藤は思考を巡らす。人間とは何かに依存せずに生きていふことのできない存在

の「生物学の原理」である。動植物が環境に順応しながら生きてい

る。人間もまた社会の真実が逆に旧慣の中にこそ社会の真実があると後藤はみたのである。

現代のリーダーシップとは政治的リーダーシップとは何か。国から自治体にいたるまで民主制度が徹底され、行政機構が堅牢に築きあがられた日本の社会に

克ク寒暑ヲ凌ギ、飢渴ニ堪ヘ、境遇ニ順応シテ生存スルガ如ク、吾等ハ時ト處ト隨イ、克ク諸般ノ困難ニ打勝ツべし」という。

後藤は自治の実践者でもあります。台湾は清朝の時代に清國の領土に組み込まれたが、これが統治の対象となることはまるでなかった。後藤はこう考える。

台湾は清朝による統治の境外に放置されていたがゆえに、「自治習慣」がここには驚くほどに発達しているではないか。

「此自治ノ慣習コソ、台灣島ニ於ケル一種ノ民法ト云ウモ不可ナシ」という。新しい統治者となつた日本がこの旧慣を存分に活用しないではすがない。権力者が

権力をもって統治のあり方を自在に構想しよと/or>のではない。何よりも日本の制度や機構を存立せしめている国家安全保障が随分とぎわ

後藤新平、政治指導者の「原像」



拓殖大学学事顧問
渡辺 利夫

か。リーダーシップを發揮しようにもそのための「空間」がかつてのようには与えられないのかもしれない。

だが制度や機構いかに整備されようと、それもつくりだした先人がいる。彼らのおそらくは並大抵ではなかつた苦心のことにつ思ひを馳せ、制度や機構を恒常的に練磨していくことが欠かせないのでない。少子高齢社会の渦中

にあって社会保障制度の持続可能

性が追求されねばならない。何より日本の制度や機構を存立せしめている国家安全保障が随分とぎわ

る。義務と権利の調整や国防上の難事を制度や機構だけで解決できるとは思われない。

後藤の政治思想の根幹にあったのは「生物学の原理」である。動植物が環境に順応しながら生きてい

る。人間もまた社会の真実が逆に旧慣の中にこそ社会の真実があると後藤はみたのである。

後藤の政治思想と人間観であった。後藤新平の思想と人間観は、後藤新平の台湾総督府民政長官時代の後藤は政治家のリーダーシップとは何かを豊饒に物語っている。朝敵仙台藩の水沢で出生、自身の

実力で地位を築いていくよ他ならかつた後藤が心修飾の人生の過程で修得していく思想と人間観である。

(わたなべ としお)